

主要科目の目標、特長

(人間学部 人間福祉学科)

授業科目の名称	目 標	特 長
社会福祉の原理と政策 I	この授業は、現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉制度の発達過程、福祉政策の課題と構成要素について基礎的な理解を得ることを目的とする。 本講義では、福祉の原理をめぐる理論と哲学についての理解、福祉政策におけるニーズと資源についての理解、福祉政策の課題と構成要素などについての総合的な理解を進める。	講義を中心とした授業である。福祉制度・政策についての基礎的な知識を身につけさせ、現代社会における福祉制度・施策の重要性を理解し、これまでの発達過程から、現状と今後の課題を見出すように学習を進める。
ソーシャルワークの理論と方法 I・II	この授業では、相談援助の理論の概要を学び、社会福祉実践領域で対人専門職としてソーシャルワークの価値に基づいた多様なアプローチの知識を獲得し、対象者への深い共感を持ち、さらに事例を通して学びを深めることを目標とする。	授業では、理論と方法の実態の把握とともに、ソーシャルワークアセスメントのツールである、ジェノグラム、エコマップ等の概要を知り、実際に使用できるようにする。さらに専門職として情報伝達に必要なコミュニケーションの基礎力を養う。
ソーシャルワークの基盤と専門職	この授業は、地域を基盤としたソーシャルワークの特性である「総合的かつ包括的な相談援助」の理論と専門職の役割を体系的に学ぶことを目的とする。 講義の内容は、以下の通りである。 1) ソーシャルワーカーとは、果たしてどのような専門職であるのかを把握する。 2) 相談援助が歴史的にどのように形成されてきたのかについて学ぶ。 3) 総合的かつ包括的な相談援助の実際とそれを支える理論(援助枠組み)について学ぶ。 4) ソーシャルワーク実践と専門職の価値・倫理について学ぶ。 5) クライエントの自己決定の実際と権利擁護の課題について把握する。 6) 相談援助専門職の概念とソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマについて学ぶ。 7) 地域を基盤としたソーシャルワーク実践とネットワーク・連携について学ぶ。	ソーシャルワークの歴史や原理・原則を取り扱う社会福祉の援助に関する基幹的な科目である。授業では原理・原則から理論・方法へと展開していく。講義形式を基本とするが、事例検討、グループ討議なども取り入れ、学生が積極的に参加できるように工夫している。
ソーシャルワーク実習及び実習指導	この授業は、つぎの3点を目標とする。 1) 事前学習によって、実習の意義や目的についての認識を深め、社会福祉実践や現場実習についての関心や意欲を高める。 2) 実習を通して、社会福祉施設や機関の役割・機能の理解を深め、専門職の働きを把握する。さらに、利用者のニーズに応じた支援方法を学び、社会福祉専門職の倫理・価値や専門的知識・技術を習得する。 3) 事後学習では、体得した援助方法・技術を理論と結びつけ、理論と実践の統合を図る。また、実習の振り返りや自己評価によって自己覚知を行う。	社会福祉士が実践活動を展開している施設や機関で240時間以上の実習を行う。実習先としては、児童相談所などの公的相談機関、高齢者福祉施設、障害者福祉施設、社会福祉協議会、病院などの多様な場がある。実習生は大学で学んだ知識と態度をもって実習に臨み、社会福祉施設や機関の役割・機能の理解を深め、専門職の働きを把握する。